

November 2, 2021

【前日の為替概況】ユーロ上昇 対ポンド 0.8500 ポンド、対ドル 1.1609 ドル・対円 132.45 円

1日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は114.00円と前営業日NY終値(113.95円)と比べて5銭程度のドル高水準だった。欧州時間に上値の重さを確認すると、2-3日に米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えるなか、利食い売りに押される動きとなった。しばらくは114.20円を挟んだ水準で値幅も限られていたが、米10年債利回りが1.55%台まで上昇幅を縮小したことに伴い、113.94円付近まで弱含む場面も見られた。

なお、この日発表された10月米ISM製造業景気指数は市場予想をわずかに上回る結果となったが、相場への影響は限られた。

ユーロドルは反発。終値は1.1606ドルと前営業日NY終値(1.1558ドル)と比べて0.0048ドル程度のユーロ高水準だった。前週末に大きく値を下げた反動から買い戻しが入った。ユーロポンドなどの上昇につれた買いも進み、一時1.1609ドルまで値を上げた。

なお、ユーロポンドは10月12日以来の高値となる0.8500ポンドまで上昇。英仏間の漁業を巡る紛争激化がポンドの下押し材料となった。

ユーロ円は反発。終値は132.31円と前営業日NY終値(131.77円)と比べて54銭程度のユーロ高水準だった。ユーロドルの上昇につれて1時前には132.45円まで本日高値を更新。その後も底堅く推移した。

【本日の東京為替見通し】豪準備銀行のカナダ銀行的なサプライズに要警戒か

本日の東京外国為替市場のドル円は、本日から明日にかけて開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)や4日のOPECプラスを控えて動きづらい展開の中、ニューヨーク株高や原油高を受けて底堅い展開が予想される。

本日のドル円のテクニカルポイントは、一目・転換線の113.85円となる。ドル円のオーダー状況は、114.00円の4日のNYカットオプションを軸に、上値は114.50-70円に断続的にドル売りオーダー、下値には、113.40円にドル買いオーダーが控えている。

ドル円の上値を抑える要因としては、中国恒大集団の子会社が6日に8250万ドルの支払い期限を迎え、今月中に1億4800万ドルの利払いで猶予期間が終了すること、バイデン大統領の1兆7500億ドル規模の税制・社会保障支出に対して、米民主党穏健派のマンチン上院議員が反対していることなどが挙げられる。

12時30分に発表される豪準備銀行(RBA)の金融政策では、政策金利0.1%の据え置きが予想されている、しかし、RBAは、3年債利回り目標0.1%の対象である2024年4月償還債の買い入れを見送り、3年国債の利回り目標を防衛しなかったことで、この目標が撤廃されるとの観測が高まっている。リスクシナリオは、カナダ銀行(中央銀行)のように債券購入プログラムを終了し、利上げ時期の見通しを3カ月程度早めることになる。RBAは、0.1%の政策金利を引き上げるのは2024年以降になると示唆しているが、2024年償還債を核とする利回り曲線目標の堅持を表明するのか、あるいは目標を緩める、もしくは撤回するのか、注目されている。RBAは、週40億豪ドルに債券購入のペースを落として、少なくとも来年2月半ばまで延長している。

オーストラリアの7-9月(第3四半期)の総合消費者物価指数は、前期比+0.8%、前年比+3.0%だった。豪中銀当局者が注目しているコアインフレ率にあたる消費者物価指数(CPI)トリム平均は、前期比+0.7%、前年同期比+2.1%となり、2015年以来6年ぶりに中銀の目標レンジである2-3%に戻った。また、メルボルン研究所が発表した10月の豪消費者インフレ指数は前月比+0.2%、前年比+3.1%に上昇していた。前回のRBA議事要旨では「CPIが持続的に2-3%で推移するまで利上げはしない」となっており、第3四半期のコアインフレ率が2%台に乗せてきたことで、第4四半期もインフレ高進が続いた場合、利上げ観測が高まることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 10月マネタリーベース
- 08:50 ☆ 9月21-22日分の日銀金融政策決定会合議事要旨

<海外>

- 12:30 ☆ 豪準備銀行(RBA)政策金利発表(予想:0.10%で据え置き)
- 16:30 ◎ 10月スイス消費者物価指数(CPI、予想:前月比0.2%)
- 16:30 ◇ 9月スイス小売売上高
- 17:50 ◎ 10月仏製造業購買担当者景気指数(PMI)改定値(予想:53.5)
- 17:55 ◎ 10月独製造業PMI改定値(予想:58.2)
- 18:00 ◎ 10月ユーロ圏製造業PMI改定値(予想:58.5)
- 21:30 ◇ 9月カナダ住宅建設許可件数(予想:前月比3.0%)
- 3日 00:30 ◇ 10月メキシコ製造業PMI
- 米連邦公開市場委員会(FOMC)1日目
- ブラジル(万聖節)、メキシコ(死者の日)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

1日 14:05 岸田首相

「大型の経済対策を11月中旬に策定」

「年内の早期に補正予算を成立させる」

1日 16:14 トラス英外相

「フランスが漁業権について撤回をしなければ行動を示す」

「フランスが(漁業権に関する)脅しをやめなければ、貿易で行動を示す」

「フランスの脅しは選挙が要因なのかもしれない」

1日 20:49 イエレン米財務長官

「インフレは近年よりも高くなっているが、これはパンデミックによるもの」

「米国経済が過熱しているとは思わない」

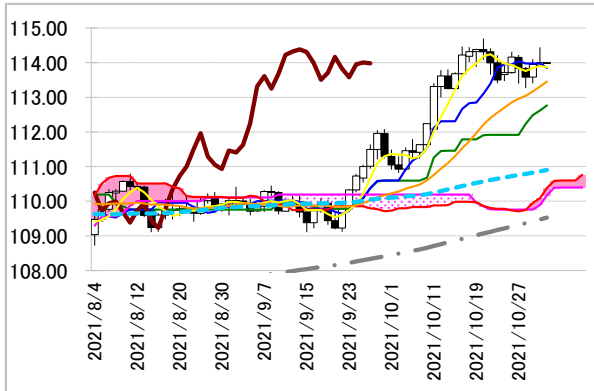
「インフレが緩和されるにつれて、経済は長期的には過熱することはない」

「12月3日の期限までに、債務上限を引き上げるように上下両院のリーダーに伝える」

「国際的な最低税率は15%に設定したが、各国でそれより引き上げることはできる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

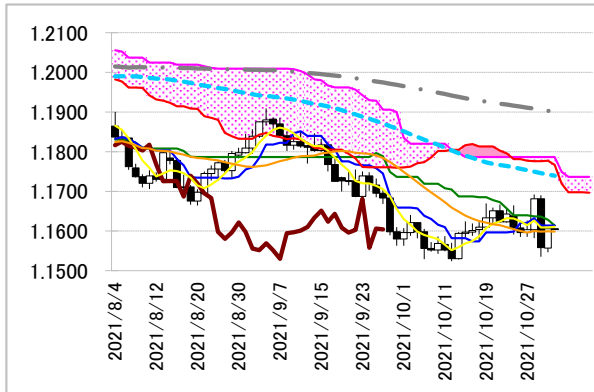


<ドル円=10/28 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。2手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月28日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス2	115.51(2017/3/10 高値)
レジスタンス1	114.70(10/20 高値=年初来高値)
前日終値	114.00
サポート1	113.26(10/28 安値)
サポート2	112.76(日足一目均衡表・基準線)

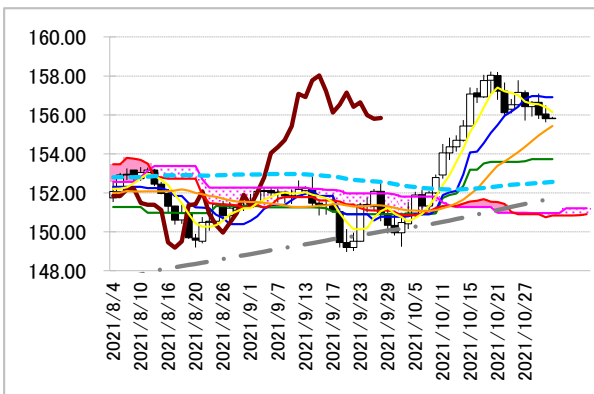


<ユーロドル=10/28 高値を抵抗に売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線と基準線は同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。10月29日の大陰線での下げに対して孕み線で反発したもの、転換線を下回って引けていることで反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線1.1614ドルを念頭に置き、10月28日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1692(10/28 高値)
前日終値	1.1606
サポート1	1.1524(10/12 安値=年初来安値)

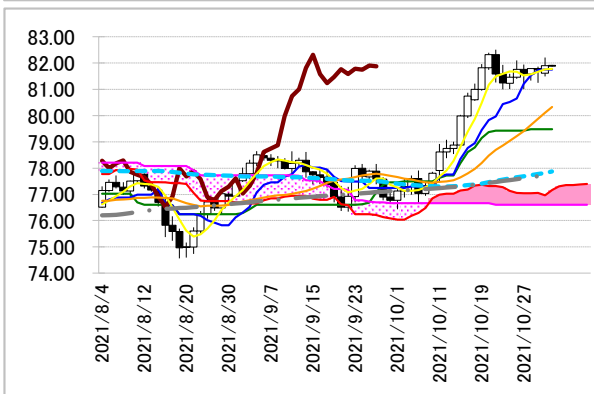


<ポンド円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、2手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	156.91(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	155.81
サポート1	154.64(10/14 安値)



<NZドル円=10/19 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。抱き線で反発し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、10月19日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	82.51(10/21 高値=年初来高値)
前日終値	81.91
サポート1	80.95(10/19 安値)

